

柏葉会総会によせて

長崎県立佐世保南高等学校

第28代校長 古賀 巖

柏葉会の皆様、まずはコロナ禍の制限も緩和され、4年ぶりに柏葉会総会並びに懇親会が開催できますことにお祝い申し上げます。私は、昨年度より伝統ある佐世保南高等学校の校長を拝命いたしました古賀巖と申します。よろしく願いいたします。皆様には日ごろから物心両面におきまして母校に対する力強いご支援・ご協力を賜り、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

記録を見てみますと、前回、本会が開催されたのが令和元年7月。それから4年が経ち、コロナという大きな波の中で地元佐世保だけでなく世界が大きく変わりました。そんな中ですが、年齢は違えど、青春の3年間を同じ母校で過ごしたという繋がり、姿は変われど会えば10代に戻ってしまう懐かしさが、本日こうして総会の開催につながったものと思っております。

さて、「不易と流行」という言葉があります。南高にとっての「不易」とは何でしょうか。創立から75周年を迎える本校で受け継いでいくべきこと。それは創立の思い、つまりこの地域の生徒の夢を実現させる学校であること。生徒が大きな夢を持ち、仲間を作り、その後押しができる学校であること。そんなすばらしい校風がそうでしょう。これは創立から75年間ずっと変わらず、そしてこれからも変えてはならない部分だと思っています。

次に「流行」ですが、南高も75年前の草創期から現在まで、行事や授業、部活動など様々な部分でその時代に合うようになってきました。その大きな一つが今年度4月に開科した「文理探究科」です。文理探究科では多くの講演会や調査・研修、海外修学旅行など様々なプログラムで、先が見えないといわれるこれからの社会を支える人材の育成を目指しています。つまり南高は今も時代に対応できる生徒を育成するよう変わり続けています。

生物学者であるチャールズ・ダーウィンの「進化論」にはこう書かれています。

It is not the strongest of the species that survives, nor the most intelligent that survives.

It is the one that is most adaptable to change.

「最も強いものが生き残るのではなく、最も賢いものが生き延びるのではなく、

唯一生き残るのは変化に対応できるものである」

コロナ禍やウクライナ問題など、現状を4年前に予測した人は誰もいませんでした。しかしこれからの生徒たちは、そんな予測困難で変化の激しい社会に対応することを求められています。

旧制佐世保中学校開校から115年、創立75年を迎える今、本校を卒業された先輩方も3万2千名を超える数となっております。この歴史と伝統を大事にしながらも佐世保南高は新たな一步を踏みだします。「学びと成長」を今年度の目標として、「自強自律 和敬礼節」の校訓のもと、「自己の成長を実感できる学校」であり続けるために努力していく所存でございます。これまで同様、母校へのご指導、ご鞭撻をよろしく申し上げます。

最後になりましたが、柏葉会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。